

## インフォメーション

【会員の皆さんへ】

学会事務のアウトソーシングについて

～ お知らせとお願い ～

会長 田中幸一

2020年度の総会議案でお知らせしましたように、当学会の会員・会費管理および学会誌等発送作業のアウトソーシングを2021年度から導入するために、手続きや準備作業を進めています。それについて会員の皆さんに、進捗状況や今後の予定をお知らせするとともに、それに伴うお願いをいたします。

### 1. 進捗状況

8月末に、委託契約予定である株式会社アトラス社と最初の打合せを行い、9月から準備作業を開始しました。主な準備作業は、導入するシステムのインターフェイスの検討、および現行会員データベースの新システムへの移行です。これらは、ほぼ完了しました。これを元に、アトラス社と契約することについて評議員会に諮り、承認されたため、このシステムを使用することを発注しました。これらの準備作業は、当学会の高須賀圭三会員が中心となってアトラス社の担当者で行いました。この過程で、高須賀

会員を学会会則第19条による特別委員として「電子化推進委員」に委嘱することを、会長・幹事会から提案し、評議員会で承認されました。

### 2. 現行の手続きからの変更点

現行の手続きからの主な変更点を記します。会員情報（住所、学会誌送付先など）の変更は、庶務幹事に連絡（電子メール、郵便など）していましたが、システムのウェブ上でいただけます。また、会費の納入は、ウェブ上でクレジットカード決済をしていただくことを推奨します。この方法では、郵便局まで行く必要はなく、また送金手数料もかかりません。しかし、これらの方法に対応できない方もいると予想されるため、従来通りの連絡および会費納入（銀行振込、郵便振込など）もオプションとして残します。

### 3. 今後の予定

2021年3月から、新システムを運用します。会員の皆さんへは、それに合わせて、新システムの使用法の説明を会費納入のお願いとともにお送りします。

### 4. 会員の皆さんへのお願い

2021年度以降の会費（それ以前の未納分も含めて）は、新システムから納入していた

できます。そのため、**2021年3月まで、会費の納入を行わないでください。**また、これまでもお願いしてきましたが、**電子メールアドレスの登録・変更をしてください。**登録・変更の連絡は、次のようにしてください。

メール宛先：[tanaka@mgu.ac.jp](mailto:tanaka@mgu.ac.jp)（田中一裕庶務幹事）

件名：クモ学会メールアドレス

手続きが変更されることには、戸惑われる方もおられるかもしれません。しかし、慣れればこちらの方が楽ではないかと思われ、感染症流行下では三密回避にもつながります。そして、学会事務の軽減は学会存続にプラスになることから、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



## トピックス

### 会長選挙・評議員選挙 開票結果

次期会長・評議員選挙の開票結果を報告します。

#### 会長選挙

投票数 64

無効票 5

1. 田中幸一	30
次点 小野展嗣	6
谷川明男	6

#### 評議員選挙

投票数 640

無効票 40

1. 馬場友希	49
2. 新海 明	40
3. 谷川明男	36
3. 中田兼介	36
5. 井原 庸	32
5. 宮下 直	32
7. 須黒達巳	30
8. 榘元敏也	27
9. 鶴崎展巨	25
10. 加村隆英	24
11. 加藤輝代子	19
12. 奥村賢一	18
13. 高須賀圭三	17
13. 原口 岳	17
15. 初芝伸吾	16

### 日本蜘蛛学会第52回大会印象記

遠藤鴻明

〇はじめに

はじめましての人ははじめまして！そうでない人はこんにちは！今年度の学会印象記を担当します、東北大学大学院修士1年の遠藤鴻明と申します。まさか、初めての遊糸への投稿が印象記になるとは・・・緊張します！

〇クモ学会前日談

さて、2020年度のクモ学会第52回大会は11月21日(土)にオンライン会議アプリ『zoom』を用いて行われました。当初の予定では8月に熊本で行われるはずでしたが新型コロナウイルス(以下コロナ)の影響で延期になっていました。コロナが流行する以

前、私はヒゴユレイグモを研究しているので「次の学会では熊本でヒゴの発表ができる！これはちょうどいい」と喜んでいましたが、その野望は叶わず・・・残念。夏になってもコロナは終息の気配を見せず私が聞くところによると一部では学会中止の声もあったようです。しかし、東海大学の村田浩平実行委員長をはじめとする関係者の皆様のご尽力によりオンラインで開催できることになったようです。開催が決まったときはとてもありがたかったです。なぜなら、助成金を申請する際には実績の記入欄があります。研究実績がまだ少ない我々学生にとっては学会で発表することも貴重な実績の一つなのです。(・ω・)ｷｯ  
○いざ、学会当日

前置きが長くなりましたが学会当日のことに話を移しましょう。今年度はオンライン開催ということでポスター発表やシンポジウム、総会、懇親会は開催されず口頭発表とショートプレゼンテーション(ポスター発表の代わり)のみでした。開催期間も短く、オンラインということで普段は学会に参加できない方々もたくさん参加できたのではないのでしょうか？私は発表者側の zoom グループにいたので実際の人数は把握していませんが開会の挨拶(会長の挨拶だったかも)によると参加申し込み者は過去最大だったようです。

#### ○口頭発表

そして、いよいよ各種発表が始まりました。発表内容一つ一つに触れると分量が多くなってしまうため記事では触れませんが、どの発表も興味深く面白いものでした。

発表のジャンルの進化や集団遺伝の内容が多かったです。中には生化学的な研究や衛星技術を使った研究などこれまでクモ学会で

見かけることの無かったユニークな切り口の研究やフィールドでの緻密な観察に基づいた研究もあり、どうしてこんなところに着目できたのだろうかと驚きの連続でした。また、群集生態の発表は今年はありませんでした。個人的には群集の研究もかなり好きなので来年期待しています。(自分が研究しろよ!!)

学会の度に思うのですが発表するにしても発表を聞くにしても12分は短い！今回、私の発表では時間をオーバーして考察(一番大事!)を巻きで話してしまいました。ボロボロで不甲斐ない・・・そしてやはり何度も発表をしている先生方はペース配分が上手い！と感じました。研究の情報量が私のものに比べてかなり多いのにしっかり時間内に収めてありました。自分は発表の経験が少ないのだからその分練習でカバーするしかない！そう言い聞かせ来年頑張ります。今回はありませんでしたが来年は学生発表賞を獲得したい！

#### ○ショートプレゼンテーション

こちらの発表も大変興味深いものが多かったです。しかし、3分という限られた時間ではどうしても早口の発表になってしまっていて話に置いていかれることもありました。欲を言うとどの発表も口頭発表でじっくり聞きたかったです。

#### ○掲示板質問システム

今回の学会では質疑応答にネット掲示板が用いられました。発表後に時間の都合上質問できなかった場合に、視聴者が質問を掲示板に書き込み発表者がそれに対するの回答を書き込むというものです。今回の学会では残念ながら(公式での)懇親会が開催されず発表に関する議論をする場が限られていたので掲示板の利用はグッドアイデアでした。考えた人

すごい！(・ω・)bグッ!

私の発表に対しても掲示板で意見をくださった方がいました。やはり、発表者としては意見や質問がもらえると嬉しいものですね。しかし、個人的に掲示板に書き込むのはハードルが高いというか少し緊張しました。顔が見えない相手とのやり取りが苦手だからでしょうか。懇親会があればお酒の力でいくらでもおしゃべりしてしまうんですけどね(笑)。というわけで今回は懇親会も是非開催をお願いします!

○アマチュア、学生に手厚い学会

閉会の挨拶の時にクモ学会は『アマチュア、学生に手厚い学会』というお話がありました。本当にその通りだと思います。私も最前線で活躍されている研究者の先生方からたくさんのアドバイスをいただいてすごく助かっています。感謝、感謝です! これからもよろしくお願いします。m(\_ \_)m

ここで、私から 1 つ提案があります。クモ学会はアマチュア、学生に手厚い学会ということで学会の口頭発表やショートプレゼンテーションの録画を発表者に許可のもと 1 週間程度公開するのはどうでしょうか? (著作権など、問題がありそうですが言うは易しなので言うだけ言います。検討済みだったらすいません) というのも、研究のボリュームが多く複雑になるとどうしても要点をいかつまんで話さないといけなくなるため視聴者側も理解するのが大変です。実際、私自身も自分が比較的詳しい分野は研究のすごさがわかるのですが自分が明るくない分野については恥ずかしながらお話についていっただけでやっとなりました。また、クモ学会も分子的な手法を利用している研究が多いです。余計なお世話かもしれませんが

アマチュアの方の中には分子の話が少し難しいと感じる方がいるのではないかと思います。そこで録画を見直すことで学会後に理解が追いつけなかったところをもう一度復習する機会があると嬉しいなと思いました。オンライン大会では zoom の録画機能ですぐできると思うので来年以降もコロナの影響などでオンライン開催になった際は検討していただくと嬉しいです。

○おわりに

学会の印象記なのに『!』や絵文字を使った文章になってしまいました。まあ、たまにはこういうのもいいですよ(笑)。今回印象記が書けているのもコロナに負けずに学会を開催していただいた村田先生をはじめとする関係者の皆様、発表者の皆様、そして視聴者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました! クモ学会はコロナにも負けず強い学会です! 来年はコロナが終息して東京で学会が開催できていることを願っています。

## 第 52 回大会 : オンライン開催 (2020 年 11 月 21 日)

田中幸一・村田浩平

第 52 回大会は、熊本県の東海大学で開催予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮して、Zoom によるオンラインで開催した。またそれに伴い、通常の大会に合わせて開催されてきた評議員会・総会を別途開催する必要が生じた。評議員会は電子メールで行い、総会は郵便による文書で行った。大会準備を総会開催と同時並行で行うことは困難であったため、大会の開催日は総会終了後の 11 月 21

日とした。今後も、オンライン大会の開催があると予想される。そこで、今回の経験を活かすため、大会の概要について、おもに運営側からの視点で記すとともに、発表者からいただいたアンケート結果について報告する。

大会準備では、第一に参加者数とそれに伴う Zoom 契約料を考慮しながら、参加費と参加資格を決める必要があった。まず参加費を無料にすることを優先し、そのため参加者は学会員に限ることにした。しかし、参加者数が全く予想できなかった。最終的に、300 名までの Zoom 契約の規模なら良いだろうということになった。問題は、参加費無料だと運営を外委託する予算はなく、かなりの部分を自前で行わなければならないことであった。ここで大変な助っ人が現れた。村田が懇意にしている東海大学湘南キャンパスの岡田工先生である。応用物理学や量子コンピュータがご専門で、情報通信にめっぽう強い（ほとんどオタク：失礼）。岡田先生に全面的にご協力いただけることになり、開催の目途がついた。湘南キャンパスは

田中の勤務地（東京農業大学厚木キャンパス）から近いというメリットもあった。岡田先生には、誌面を借りて心からお礼申し上げる。

大会は半日間で、発表形式は口頭の一般講演（質疑合わせて 15 分）とポスター発表に当たるショートプレゼンテーション（音声付きパワーポイント、3 分）とした。9 月中旬頃から準備にかかり、大会ホームページの作成、参加登録フォームの作成、開催案内の郵送などを行い、参加・発表申込み期限を 11 月 11 日とした。

ところが、締切近くなっても、発表数も参加者数も少なく、当学会では通常の大会でもよくあることとは言え、恐れていた事態になったかと心配した。しかし最終的に、口頭発表が 11 題、ショートプレゼンテーションが 5 題、参加者数は 96 名となった。発表数は、当初予定していた時間にちょうど収まるくらいの数になり、参加者数は田中が会長になってから最も多くなった（過去 2 回は 60 名あまり）。例年だと参加できないが、オンライン開催によって参加できた会員もおられると思われ、この点はオン

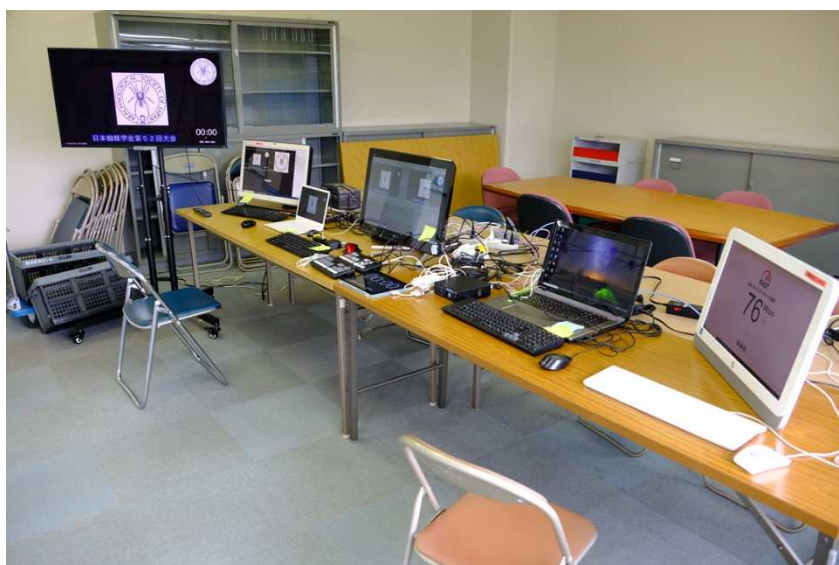


図 1. 大会本部の様子（準備中）

ライン開催のメリットである。発表された方、ご参加された方々にお礼申し上げる。

大会本部として東海大の1室を借り、岡田先生が中心となり村田と田中が協力して、大会前日から会場の設定を行った(図1)。発表者には、この間に、Zoom ミーティング ID にアクセスしていただき、接続および発表ファイルの動作確認と気になる点などの意見交換を行った。この時に、発表者には、ハウリング防止のために、イヤフォンやヘッドフォンを使用していただくようお願いした。こうして準備が整い、いよいよ午後1時から大会本番開始である。大会長挨拶、会長挨拶に続いて、一般講演が始まった。いくつかトラブルはあったものの(後述)、発表者が接続できない、視聴者の接続多数によりインターネット回線がダウンする、といった大きなトラブルはなく、プログラムは進行した。発表者は、若手からベテランまでにわたったが、いずれもレベルの高いものであった。発表内容については、Acta Arachnologica 69(2)(2020)に掲載された講演要旨および馬場友希さんによる大会印象記をご覧ください。

ここで、事務局側で把握したトラブル等の問題点を記し、今後の参考としたい。

### 1. 質問者の挙手

当初、質問者には、Zoom の機能である「反応(リアクション)」のマーク(挙手、拍手など。バージョンによっては「参加者」にメニューがある)を出してもらうことにした。しかし、途中で、座長が画面で参加者全員を見られないことが分かった。そこで、質問・意見がある場合には、マイクをオンにして「声で」知らせてもらうことにした。今後の大会でも、他に良い方法が見つからない限り、この方法を用いるこ

とになるであろう。

### 2. 時間を知らせるベルが聞こえない

通常の大会同様に、発表の予鈴・終鈴を知らせるベルを、専用のPC上でタイマーによって自動で鳴るように設定した。しかし、ベルが聞こえないという事態が生じた。オンラインでの発表において声が鮮明に聞こえないことを防止するため、ノイズを除去するシステムを組み込んだ。しかし、これが強すぎたため、ベルをノイズと認識して除去してしまった。リハーサルでは、タイマーとベルが正常に作動することを確認した。しかし、本番同様に発表しながら作動するかは確認しなかった。今後は、本番同様のリハーサルを入れて確認すべきであることを学んだ。

### 3. 登録番号と講演番号

発表者に、登録番号順のリストを送ってしまった。プログラムがあり、事前の接続確認の時に連絡したので、発表者は理解されたが、混乱を与えてしまった。

大会終了後に発表者には簡単なアンケートを送り、10名の方から回答をいただいた。アンケートは3つの事項について、分かりやすさの三択および不便を感じた点、改善すべき点の自由記載とした(表1)。分かりやすさの点では、概ね良好であったが、「発表および質疑応答(大会HPの掲示板を含む)の方法について」で、わかりやすかった(A)が6名であったのは、改善の余地があることを示している。おそらく、上記のトラブルとともに、質問の掲示板が使いにくかったようである。

「不便を感じた点、改善すべき点」に書かれたことをまとめて記すと次のようになる(上記の問題点に記したことは省略する)。参加・発表登録については、事前の接続テストが分かりに

表1. アンケート結果

質 問	A	B	C
参加・発表の登録，講演要旨送信，発表ファイル送信について	9	1	0
発表および質疑応答（大会HPの掲示板を含む）の方法について	6	4	0
発表時の音声および画像について	10	0	0

A：わかりやすかった，B：まあ，分かりやすかった，C：わかりにくかった

くかった，登録を自動返信にしてほしかった，登録のトップページにもタイムテーブルがあると良かった．発表・質疑応答については，質問者の顔が見えない，視聴者の顔が見えない・反応が分からない，視聴者から拍手を送りたかった，質問掲示板が使いにくかった・書き込み時間を考慮して質問時間を長くしてほしかった，Web による質問が良い（チャット機能などを利用？），ポスター発表は不要ではないか．発表時の音声・画像については，ハウリングが生じた，発表者の環境によって音が途切れた．以上のようなアンケート結果などを踏まえて，今後の検討課題を記す．

#### 1. 大会の内容

今回は，準備期間が限られたこと，参加者数や発表数の予測ができなかったことから，一般講演とショートプレゼンテーション（ポスター発表）というシンプルな構成にした．今後，開催期間を長くして，シンポジウムなどを入れることを検討する必要がある．今回の発表は，レベルの高いものが揃った．これは良いことであるが，発表を志す者にとって敷居が高くないようにしたい．通常の大会で設けられた学生による発表賞のコーナー，また数分程度の短い発表コーナーなどを設けるのも良いかもしれない．

#### 2. 事前の接続確認

発表者全員に個別に接続確認することによ

って，トラブルを未然に防げたと思う．一部にハウリングを起こしたが，事前の注意によって少なくすることができた．しかし，発表数が増えれば，全員に事前確認することは難しくなるだろう．この場合に，どう対処するか検討しておく必要がある．

#### 3. 視聴者の反応

質問者のカメラをオンにすることはできる．見やすいか，うまく表示されるか，など事前にテストする必要がある．視聴者のカメラをオンにして表示するのは無理があるが，発表と質疑が終わった時に，反応マークで拍手を送るなどの方法がある（全員分を見られないとしても）．

#### 4. 参加資格および参加者

参加者は，学会員に限定した．会員以外からの参加希望が，予想外に多かった（学会ホームページで開催を知ったようだ）．会員に限ることを返答し，これによって数名の新入会員があった．これはメリットであったが，参加を断念された方も多かった．参加者数は多くなったが，年配の会員の参加が少なかったと感じた．インターネットに不慣れであったり，新たなことを覚えるのが億劫であったり，が理由であろうか．今後は，各地の同好会などでも，オンラインによる発表会等のイベントなどが予定されている．身近なところで参加されて，当学会の大会にも参加していただければ，と思っている．学会の大会は，学術的な面だけでなく，学会員同士

が直接お会いして交流する、初心者がベテランにお話したり質問したりできる、といった面があり、会員同士のつながりを大事にするのは当学会では特に重要だと思う。今回、大会補助費を使って、大会記念品（ボールペン）を会員全員にお送りしたが、学会と会員のつながりを感じていただきたかったからである。今後も、オンライン大会が開催される場合には、このことを念頭に置いて進めていきたい。どのような形で開催されるにしても、会員の皆さん多数のご参加をお願いしたい。



## 同好会情報

ここでは日本各地にあるクモ同好会で発行されている定期刊行物の内容、採集会や講演会（総会・例会）の日程などを紹介します。興味を持たれた方は入会したり、行事に参加されてはいかがでしょうか。

**三重クモ談話会**（会長：橋本理市）  
会報「しのびぐも」を年1回発行。採集会・合宿・例会などを年数回実施。

しのびぐも 47号（2020年6月発行）  
熊田憲一：三重県から新種報告されたイセヤチグモ  
塩崎哲哉：三重県初記録種の報告  
貝發憲治：イズシマヒメグモの記録  
加藤修朗：キムラグモ巢の形状について  
貝發憲治：坂部元宏氏寄贈のクモ類標本同定結

果  
塩崎哲哉・武藤茂忠・貝發憲治・熊田憲一・加藤修朗：御浜町坂本の里山のクモ ～2019年度三重クモ談話会採集会採集品目録

総会・反省会 2021年2月20日（土）松阪市日野町カリヨンプラザ

入会申し込み  
〒515-0087 三重県松阪市萌木町7-4  
貝發憲治（事務局）  
Tel (Fax) 0598-29-6427  
mail : kumo@mctv.ne.jp  
会費 年2000円

**中部蜘蛛懇談会**（代表：緒方清人）  
会報「蜘蛛」を年1回、「まどい」を年3回発行。採集会を年2～4回。総会・研究会を年1回実施。

蜘蛛（KUMO）53号（作成中）  
総会・研究会は2021年2月11日（木、祝）Zoomによるオンラインで開催

入会申し込み他  
全般について  
〒472-0022 知立市山屋敷町東山10-6  
緒方清人（代表）  
Tel 0566-83-4474  
E-mail:neon\_kiyotoi@ybb.ne.jp

入会・会費など  
〒467-8501 名古屋市瑞穂区瑞穂町山の畑1  
名古屋市立大学 気付 片山詔久（会計）  
Tel 052-872-5853  
nory@nsc.nagoya-cu.ac.jp  
会費



正会員 年 3000 円 (高校生以下 1000 円)

準会員 「まどい」のみ 1000 円

東京蜘蛛談話会 (会長: 新海栄一)

会報「KISHIDAIA」を年 2 回, 「談話会通信」  
を年 3 回発行. 採集会年 4 回・合宿年 1 回・  
総会例会などを年 2 回実施.

KISHIDAIA 117 号 (2020 年 8 月発行)

奥村賢一: ヤチグモ類奇形個体の事例

馬場友希・河野勝行: アマミホウシグモによる  
コヒゲジロハサミムシの捕食

馬場友希・吉田 譲: 福島県からのババハシリ  
グモの初記録

新海 明: スズミグモの網構造の再検討

鈴木佑弥: 野外におけるシラホシコゲチャハエ  
トリの雄間闘争の観察

鈴木佑弥・奥村賢一: 静岡県におけるヤクチビ  
ヤチグモの記録

鈴木佑弥・安藤昭久: イッカクコブガシラヌカ  
グモ (新称) の分布記録

平松毅久・嶋田順一: 晩秋の奥武蔵にカネコト  
タテグモを探して

平松毅久: 埼玉県でムナアカナルコグモを採集

長井聡道: ヤスダコモリグモの生態

平松毅久: 本土産ナルコグモと卵のうが微妙に  
違う南西諸島産 *Wendilgarda* (カラカラグ  
モ科

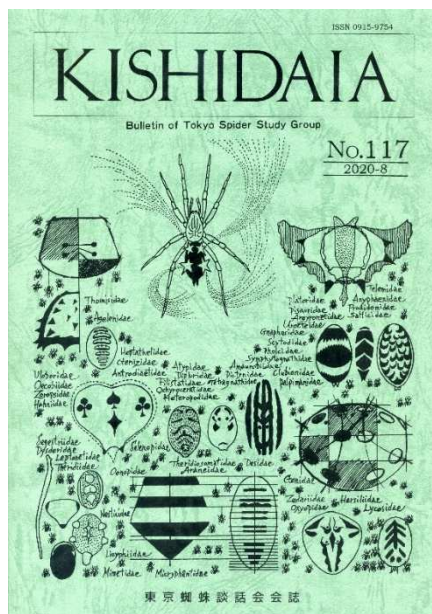
DRAGLINES

馬場友希・中島 淳: 福岡県におけるマダラフ  
クログモの初記録

馬場友希・中島 淳・奥村賢一: 福岡県北九州  
市白島 (男島) におけるクモの追加記録

笹岡文雄: プランターから採集されたナナメケ  
シグモ

嶋田順一: 「はやにえ」にされたジョロウクモ



を見て思うこと

嶋田順一・吉野光代: 天覧山でクモタケが大量  
発生

加藤俊英・馬場友希: ワイノジハエトリの千葉  
県からの採集記録

林 成多・馬場友希: 島根県東部のイソハエト  
リ

遠藤鴻明・内田翔太・篠部将太郎・谷川明男:  
南大東島で採集されたクモ

遠藤鴻明: 青ヶ島で採集されたクモ

遠藤鴻明: 八丈島で採集されたクモ

遠藤鴻明: 奄美大島で採集されたクモ

恵 海斗・鈴木佑弥: ヒゲナガアメイロケアリ  
の巣から採集されたコタナグモ

鈴木佑弥: アオグロハシリグモによるニホンア  
マガエルの捕食事例

鈴木佑弥: ササグモの卵嚢を摂食するアシナガ  
コマチグモ

鈴木佑弥: 千葉県で採集したクモ類

鈴木佑弥・小森谷泰: 北大東島で採集されたク  
モ

鈴木佑弥:スズミグモの網内にジョロウグモと  
オオシロカネグモが造網  
鈴木佑弥:テングヌカグモによるムナボシヒメ  
グモの捕食, 再び  
鈴木佑弥:ノジマモリヒメグモの網を野外で発  
見  
平松毅久:卵のうを保護するリュウキュウミド  
リヒメグモ  
平松毅久:建物の外壁にいたヤエヤマナガイボ  
グモ  
芹田凌平:イズシマヒメグモの新産地  
芹田凌平:ニホンヒメグモを捕食したデーニッ  
ツハエト  
芹田凌平:ヒゲナガハシリグモを捕食したオオ  
シロカネグモ  
芹田凌平:ヒゲナガハシリグモを捕食したヤマ  
トカナエグモ  
芹田凌平:愛媛県で採集したクモ  
芹田凌平:香川県で採集したクモ  
芹田凌平:静岡県伊東市で採集したクモ  
芹田凌平:末吉公園で採集したクモ  
芹田凌平:長野県で採集したクモ  
信太理央:沖縄島でシロスジコアシダカグモを  
採集  
信太理央・松元音旺:与那国島で採集されたク  
モ  
信太理央:鹿児島県でドウナガカニグモを採集  
新海栄一:津軽半島龍飛岬のクモ  
新海栄一:岩手県早池峰山のクモ  
長井聡道:カワラメキリグモの派手な色彩変異  
馬場友希:南西諸島で採集されたクモの追加記  
録  
馬場友希・馬場三男:北九州市山田緑地で採集  
された九州新記録・福岡県新記録のクモ  
馬場友希・田中幸一・大野 豪:沖縄島の有機・

慣行水田で採集されたクモ  
馬場友希・田中幸一:愛媛県の水田で採集され  
たクモ  
馬場友希・田中幸一:三重県の水田で採集され  
たクモ  
芹田凌平:北海道で採集したクモ  
菅波洋平:静岡県伊豆地方の土壌から採集され  
たクモ類  
菅波洋平:長野県の土壌から採集されたクモ類  
久保田 直:佐賀県檜原湿原のササラダニ類  
久保田 直:佐賀県石原川土手のササラダニ類  
平松毅久・嶋田順一:埼玉県で記録が少ないク  
モ(埼玉県新記録を含む)  
奥村賢一:2019年から2020年の冬季に琉  
球列島で採集したクモ類  
鈴木佑弥・遠藤鴻明・芹田凌平・野口奨悟:東  
京蜘蛛談話会 2019年度山形合宿未報告の  
クモ  
新海栄一:石川県舳倉島のクモ  
新海栄一:石川県手取川河川敷のクモ  
平松毅久・嶋田順一:2019年度東京蜘蛛談話  
会採集観察会報告 天覧山のクモ  
谷川明男:日本産クモ類目録 ver. 2020 R3  
入会申し込み  
〒186-0002 東京都国立市東 3-10-8  
コンフィデンス高垣 105 (有) エコス  
初芝伸吾 (事務局)  
Tel 042-501-2651  
E-mail:hatsushiba-ecosys@h8.dion.ne.jp  
会費 年 2000 円(学生 1000 円)  
  
関西クモ研究会(会長:田中穂積)  
会報「くものい」とを年2回発行.採集会・研  
究会例会などを年数回実施.

くものいと 54 号 (作成中)

入会申し込み

〒569-0087

高槻市千代田町 1-1-527

加村隆英 方

電子メール: kamura@haruka.otemon.ac.jp

会費 年 1000 円

### 東京クモゼミ

毎月 1 回, 第 1 日曜日に千葉県市川市の加藤宅で開催. 会費などなく誰でも参加できる.

連絡先 新海 明 042-679-3728

または, 加藤輝代子 047-373-3344

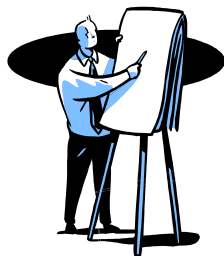
開催日は <https://dp7a-tnkw.wixsite.com/kumosemi> に掲示しています.

### メンバーリスト「クモネット」

会費などなく誰でも参加できる. 入会の申し込みは e-mail で馬場友希まで.

ybaba@affrc.go.jp

## 言いたい! 聞きたい!



### クモ切手の風景

15

笹岡文雄

今回の切手は見た通りクモ切手ではなく, サメ切手です. コンゴ民主共和国 (旧ザイール) で 2002 年に発行された 7.8cm×5.8cm の小さい「小型」シートですが, 奇妙な図案です. 切手自体のサメは, *Lamna nasus* 和名ニシネズミザメ, 北大西洋と南半球の温帯から亜寒帯



域に生息しています.

発行国コンゴはコンゴ川の河口部分に海岸線が 37km あるだけで, 基本的には内陸国です. そのわずかとはいえ, 領海があるわけですが, その海域周辺のニシネズミサメ分布の記録はみつきりませんでした. クモはどうでしょうか. ニワオニグモ? でしょうか. それとするとやはりこちらもコンゴの分布記録はみつきりませんでした. それとも似た別種か, 表記がないので何とも言えません.

分布もしていない魚類とクモの組み合わせ図案で, タイトル「SHARKS」の余白に何故クモなのか, 学名が類似?, 現地で「クモサメ」と呼ばれている?, 色々創造をさせてくれます. この年, コンゴは魚切手も 6 種出しているので関連があるかもしれませんが, そちらにクモの図案は入っていません. ただ 2002 年は長く続いたコンゴ内戦が一応終結した年です. とても記念切手など発行できる国情とは考えにくいと思います. そんな混乱期ですので, 恐らく国外で印刷されたものと考えられますが, 発行機関などの銘がなく詳細は不明です. 国際ロータリークラブなどのエンブレムが入っていることから, 印刷だけでなく販売も含め色々と援助協力があったかもしれません.

ただコンゴ民主共和国, 切手発行は金になると思ったのか, この後全てが関連のない図案を

組み合わせた、トンでもない小型シートを発行したりしています。担当者がクモ好きだったということではなく、単に何でもありだったのではないかと思います。

## 本州でキムラグモを探そう

新海 明

キムラグモを求めて谷川さんと九州各地を渡り歩いた。ここでの話はその調査を手伝ってほしいということではない。最近になってキムラグモが生息していないと思われていた九州北部の佐賀県(中村他 2020:K116)や大阪府(長野・谷川 2020:K116)などで相次いで発見されたことに基づく提案である。

私が九州に通い始めた当初の目的はキシノウエトタテグモ(以下、キシノウエとする)とクモタケを求めてのことだった(畑守他 1997:K72)。この時まで、私はキシノウエとキムラグモは住居の扉の形状を見ればたちどころに区別できると思っていた。キシノウエの扉はしっかりしていて、キムラグモは何となくもろい扉だから・・・と考えていたのだ。しかし、九州でのキムラグモ調査で掘り取りを担当する谷川さんから「新海さん、これはトタテです」と何度言われたことか!! 成体ならいざ知らず幼体となると手におえないことを痛感した。掘り取ることが最善だが、最低でも扉をめぐり、糸の裏打ちの有無を確認しなければならぬことを思い知らされた。

恥を忍んで、さらに言えばキシノウエとキノポリトタテグモやキノポリトタテグモとキムラグモの扉さえも見間違えたことがあった(弁

解させてもらえば、ほんの1~2回だけです。キノポリは地面にも住居を作ることがあり、西日本では特に多い気がする)。古希を迎えそうな今ならともかく10数年以上も以前のことである。そして多分数百から千ものキムラグモの住居を見たらうで述べているのだ。

私の採集の失敗談をここで述べるのが目的でもない。キムラグモやキシノウエは住居、特に扉だけで判断してはならないと言いたいのだ。佐賀県でのキムラグモの調査に同行した折に、試しに扉だけでキムラグモとキシノウエを見極められるかを改めてやってみたが、やはりかなり失敗してしまった。ここにはキムラグモが生息していると思って扉を見るとトタテグモの住居の扉は何となくキムラグモの扉に見えてしまった・・・ということだろう。

私たちは、関東や関西さらに中部圏のキシノウエの崖地でも同様なことをしていないだろうか。少なくとも私は、これらの各地で扉をめぐって確認したことがない。すべて扉の外見だけでキシノウエと判断していた。ひょっとすれば、この中にキムラグモが混じっていたかもしれない。

「いえいえ。新海さん本州にはキムラグモは生息していませんよ」と反論されそうだ。「キムラグモは元来、本州には分布していない」これはその通りだと思う。では、何故このような提案をするのか。実は佐賀県産も大阪産もDNA解析で九州南部の既産地由来であることがわかっている(上記K116)。つまり共に人為的な攪乱である。このようなことが起きるという予想は九州各地を谷川さんと巡っていた時の車内で度々話していた。その根拠はキシノウエのDNAによる分布調査結果(谷川・新海 2014:K105)に基づくものだ。キシノウエの

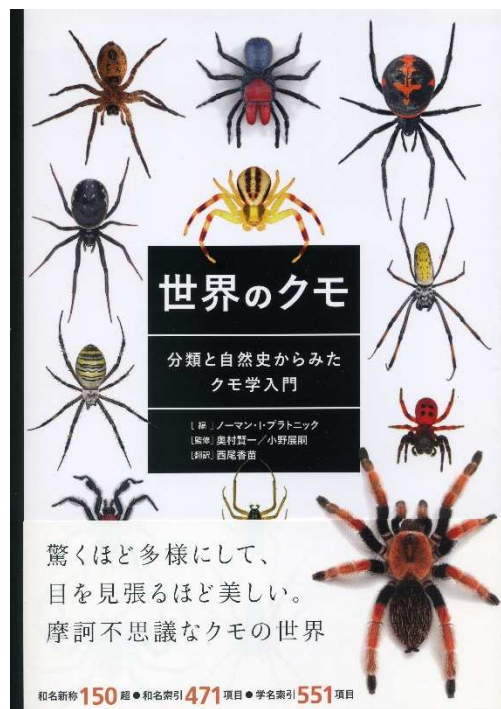
分布状況を見ると「他の生息地から距離的にかなり離れた分布の飛び地がいくつも目に」つく。例えば、本州の広域に見られる遺伝子タイプのものがいわき市、仙台市、酒田市と飛び地のように見られる。伊豆諸島のキシノウエでは大島と三宅島にいた個体は本州広域タイプであるのに対して、八丈島のキシノウエは東京都の府中と同じものだった。さらに南西諸島と同じタイプのものが九州内や四国内で発見されたのだ。

詳細はいまだに十分に解明されていないがDNA解析によれば、現在のキシノウエの分布状態はすでに人為的な攪乱を受けたあとらしいことが分かってきた。おそらく、庭園の建設などで移植された樹々や土石に付着して運ばれたのだろう。キシノウエでこのようなことが存在するならばキムラグモでも同じ現象が見られるのではないか。九州の移動中に車内で交わされた谷川さんとの会話である。

「そのうちに九州北部にも足を伸ばしてみようか」などと言っていた矢先に、佐賀県でキムラグモが発見されたとの知らせを谷川さんが受けたのだ。そして、すぐにDNA解析をすると、やはり九州の南部から来たキムラグモであることが判明した。その採集地の近くには偶然かもしれないが植木屋の植栽地があった。大阪府でもキムラグモが発見され、ここも1匹だけが偶然に発見されたのではないことが確認されている。同様なことは東京や京都や名古屋のキシノウエの産地でも起こっていないだろうか。

キムラグモは本州には「いない」。これが「こわい」のである。キムラグモを本州で探そう!! 扉を開けて糸の裏打ちの有無をしっかりと確認しよう。出来たら掘り取りをしてみよう。ピッ

トホールトラップを仕掛けてみよう。「キムラグモがいた」という報告が本州で相次ぐかもしれないのだ。



ノーマン・プラトニック 編

奥村賢一・小野展嗣 監修

西尾香苗 訳

世界のクモ

ISBN : 978-4-7661-3399-8

グラフィック社

255p. 3900 円+税



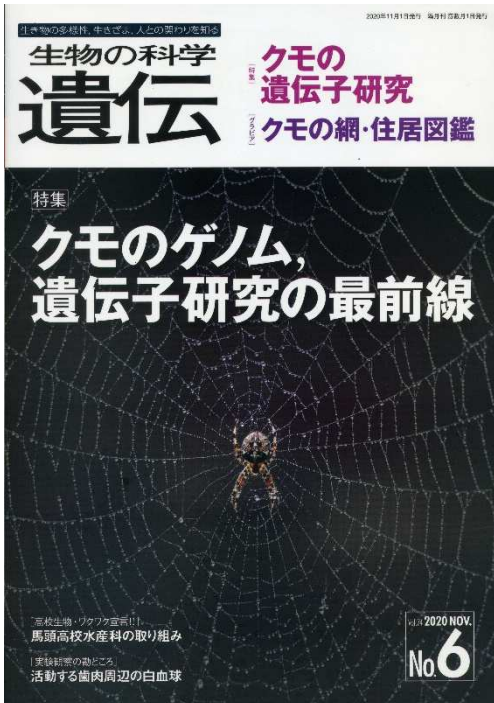
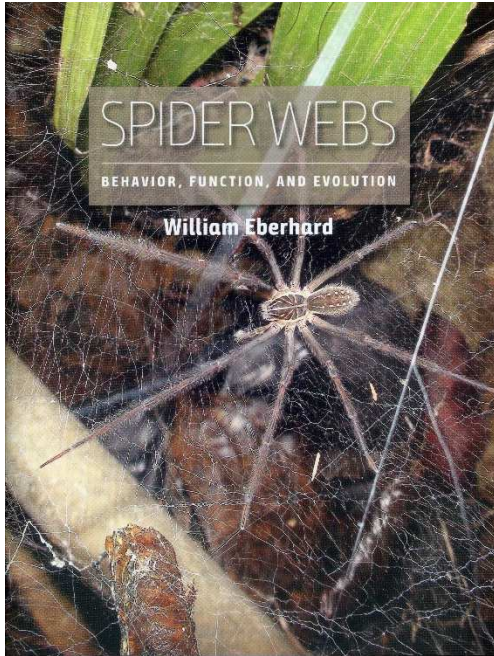
原書 : Norman Platnick Ed.

Spiders of the World

ISBN : 978-0-691-18885-0

Princeton University Press

256p. US\$29.95



William Eberhard

✓Spider Webs

ISBN : 978-0-226-53460-2

The University of Chicago Press

658p. US\$75

✓生物の科学 遺伝 Vol.74, No.6

ISBN : 978-4-86043-640-7

(株)エヌ・ティー・エス

特集 : p.643-699 1600 円+税

## 採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限定させていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

アサヒハエトリ 群馬県前橋市三夜沢町

2020年5月17日 1♀ 須黒達巳採集同定。

アシプトハエトリ 広島県広島市安佐南区伴南こころ北公園 2020年3月18日 1♂2♀ 本多美樹採集鈴木佑弥同定

コジャバラハエトリ 群馬県前橋市三夜沢町 2020年5月17日 1♀成体 須黒達巳採集同定.

シマゴミグモ 広島県広島市安佐南区大塚西 2020年5月29日 1♀ 本多美樹採集・鈴木佑弥氏同定

ヒゲナガツヤグモ 広島県広島市安佐南区大塚西 2020年5月30日 1♀ 本多美樹採集・鈴木佑弥同定

オオシマツヅラケムリグモ 鹿児島県徳之島天城町西阿木名 2018年3月28日 1♂ 須黒達巳採集同定

カタオカハエトリ 山形県鶴岡市大宝寺日本国 2020年6月9日 1♂ 高須賀圭三採集同定

キクメハシリグモ 福井県敦賀市檜曲 中池見湿地 2020年6月3日 1♀ 藤野勇馬写真撮影同定・谷川明男確認

ギンナガゴミグモ 神奈川県秦野市くずは緑地 2020年8月20日 1♀ 府川真理子採集同定・谷川明男確認

コケオニグモ 福井県大野市長野(九頭竜ダムの北東約1.2km) 2020年8月10日 1♂ 斎藤寿子採集・田中一裕同定

コツブウラシマグモ 新潟県糸魚川市寺地 2019年8月27日 1♀ 加村隆英採集同定

シラホシコゲチャハエトリ 山梨県南アルプス市在家塚 2020年6月7日 1♂ 齊藤勝巳採集同定

シロスジカノコハエトリ 滋賀県高島市朽木地子原 2020年6月16日 1♂ 吉田真採集同定

タイリクケムリグモ 福岡県北九州市若松区響町1丁目 2020年6月28日 1♀ 山本悠画採集同定・谷川明男確認

タカノハエトリ 山梨県南アルプス市在家塚 2020年7月1日 1幼体(飼育後8/23成♀) 齊藤勝巳採集・谷川明男飼育同定

ツシマトリノフンダマシ 愛知県愛知郡東郷町諸輪杉ノ木 2020年7月31日 1♀ 吉田政孝採集・川村侑平同定・谷川明男確認

ヒトリコゲチャハエトリ 山梨県南アルプス市在家塚 2020年6月7日 1♂ 齊藤勝巳採集同定. 北海道札幌市中央区旭ヶ丘 2020年7月22日 1♀ 23日 1♂ 能登谷誠採集・同定・谷川明男確認

マダラフクログモ 広島県広島市佐伯区石内北「こころレイクサイドパーク」 2019年12月3日 1♂2幼体(飼育後翌年3月に脱皮成♀)本多美樹採集・鈴木佑弥同定

マツモトオチバカニグモ 滋賀県高島市朽木麻生塩谷 2020年6月23日 1♀ 吉田真採集同定・谷川明男確認

マメイタイセキグモ 広島県東広島市鏡山角協調整池の法面 2020年8月24日 1♀ 南葉鍊志郎採集同定・馬場友希確認

ムシバミコガネグモ 広島県東広島市鏡山教育学部棟駐輪場 2020年8月11日 1♀ 南葉鍊志郎採集同定・馬場友希確認. 広島県広島市安佐南区祇園 2020年6月25日 1♀ 本多美樹採集・鈴木佑弥同定

ヤガタアリグモ 広島県広島市安佐南区大塚

西 2020年 8月20日 1♂ 本多美樹採  
集・鈴木佑弥同定

ヤセゴミグモ 鹿児島県徳之島手々(27.  
885072N, 128.935312E) 2020年11月  
12日 1♀ 谷川明男採集同定

ヨコフカニグモ 採集地 広島県広島市佐伯  
区石内北「こころレイクサイドパーク」  
2020年 10月17日 1♂ 本多美樹採集・  
鈴木佑弥同定

<成幼不明・幼体による参考記録>

アカイロトリノフンダマシ 宮城県仙台市青  
葉区荒巻青葉 青葉の森緑地管理センター前  
2020年 7月15日 1♀(成幼不明) 写真  
撮影 池田泰宏撮影・池田泰宏同定

オオジョロウグモ 鹿児島県熊毛郡屋久島町  
志戸子 133-1 志戸子ガジュマル公園  
2019年 8月 8日 1幼体 山之内俊哉写真  
撮影同定

コガネグモ 宮城県仙台市青葉区川内五色沼  
2020年 7月16日 1♀(成幼不明) 池田  
泰宏写真撮影・同定。宮城県亘理郡逢隈田沢  
一帯 2020年 7月21日 10以上♀(成幼  
不明) 池田泰宏撮影・同定

コカニグモ 宮城県仙台市青葉区川内青葉山  
公園長沼 1♀(成幼不明) 池田泰宏撮影・  
同定

コケオニグモ 愛媛県東温市上林 皿ヶ嶺連峰  
県立自然公園 2019年 8月18日 1♀(成  
幼不明) 山之内俊哉写真撮影同定

ワイノジハエトリ 福岡県北九州市小倉南区  
2020年 4月30日 2幼体 5月6日 1  
幼体 福永亮太採集同定。

(新海 明・谷川明男集約)

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mailでは dp7a-tnkw@j.asahi-net.or.  
jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年2回(5月, 11月)の予定。  
投稿締切は発行月の前月末日(4月末と10月  
末)です。

## 日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは XXXXXXXXXX

入退会は

庶務幹事

田中一裕

〒981-8557

宮城県仙台市青葉区桜ヶ丘 9-1-1

宮城学院女子大学一般教育科 生態学研究室

E-mail: [tanaka@mgu.ac.jp](mailto:tanaka@mgu.ac.jp)

会費の問い合わせ及び住所変更は

会計幹事

加藤輝代子

〒272-0827

千葉県市川市国府台 5-26-16-206

E-mail : [kiyoko\\_kato@outlook.jp](mailto:kiyoko_kato@outlook.jp)

年会費 正会員 7000円 (学生は 5000円)

郵便振替口座 00970-3-46745

日本蜘蛛学会

---

---

遊絲 第47号

2021年 1月30日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 田中幸一

---

---